

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490700038		
法人名	株式会社ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター彦ノ内		
所在地	津久見市大字津久見783番地		
自己評価作成日	平成30年3月2日	評価結果市町村受理日	平成30年5月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosvoCd=4490700038-00&PrefCd=44&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番の1 チュリス古国府壱番館 1F
訪問調査日	平成30年3月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・「その人らしさをいつまでも」をコンセプトに生活支援を実施しています。
- ・個々の自然な生活リズムを継続できるよう、時間により照明の明るさが変わります。
- ・居室を出るとすぐにホールがあり職員や他の入居者様との関わりが持てます。
- ・定期的にミーティングや研修を行い、個別のケアを実践しています。
- ・季節感のある献立を考え、利用者様と一緒に調理を行い提供しています。
- ・協力医療機関の往診、看護師の定期訪問(医療連携)により健康管理を行っています。
- ・地域行事への参加や協力を心がけ、互いに支えあえる関係を構築できるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周囲には住宅や商店があり、比較的交通量の多い県道沿いに建てられた2階建2ユニットのホームです。法人の理念を基本に事業所理念「その人らしく〜」を作成し、職員間での共有、ケアでの実践に向けて取り組んでいます。利用者与会話する中で傾聴に努め、言葉の端々に見える本音に気づき、「その人らしく〜」の生活が送れるよう支援するとともに、情報共有により家族との連携を大切に安心と信頼に繋げています。事業所では管理者、職員の交替もあり、管理者はミーティング等で職員の意見や提案を聞き取り、必要時には個別面談を行い、話しやすい環境づくりに努めており、事業所の中は利用者、職員の穏やかな雰囲気伝わってきます。昨年の水害時は地域との連携も図られ、被災した高齢者を事業所に受け入れ支援する等、地域との協力・貢献に繋がりました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1〜55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ全員に提案してもらい新しく理念をつくり直した。理念をもとに、日々のケアの質の向上に繋がるよう努めている。	「どのような施設にしたいのか」個々の職員の思いの表出(メモ書き)を活かした協議(嬉しい介護・地域間交流・家族連携等)にて、チーム共同で理念の策定への取り組みを支援へと、その反映に努める姿勢が伺えます。	理念の反映においては、1年間の支援経過の振り返りと次年度への目標設定の意向を伺いました。施設の個性と介護力の向上への導きとなる、運営の仕組みづくりに期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り等の行事に参加したり、近くのスーパーに買い物に行くことで地域の方々との交流を行っている。台風水害の際は近隣の車の避難場所として駐車場を使っていた。	回覧板の回覧・地域ミニ講座(認知症ケア)の開設等、新規の関係づくりに取り組んでいます。高校生ボランティア(お茶席)・地域参加(夏祭り・おやつの買い物等)も行われ、積極的な地域間交流の姿が伺えます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェへの参加、合同防災訓練、一斉掃除に参加している。見学会やミニ講座を通して認知症ケアについて発信する機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催。ご家族、地域住民、区長、民生委員、行政担当者に出席いただき、ご意見を日々のサービスに取り入れている。	全家族への案内状と会議報告書の送付により、施設の現状(ヒヤリハット・事故報告含む)の把握と透明性が図られています。地域連携の取り組みにおいても、発展的に相互の関係づくりへと繋ぐ、交流の様子が伺えます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者に相談し、助言を頂いている。運営推進会議に出席の際、意見等を頂戴しホームの改善に努めている。	運営推進会議での情報の共有・電話連絡や訪問による相談が行われており、意見・アドバイス等を支援に繋げるなど、相互連携の関係づくりが図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルをもとにスタッフに研修を実施し理解を深めている。	利用者への理解を深める職員(気づき・言葉かけ等)の姿を支持しており、行動を抑制しない介護の検討に取り組んでいます。研修欠席者には周知の仕組みが組まれています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回、虐待防止の研修を実施。毎月のスタッフミーティングにて振り返りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度の利用を希望されているご家族と一緒に包括支援センターに相談に行き、詳細を学ぶ機会ができた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には読み合わせを行い、疑問等がないかを確認しながら分かりやすく説明するよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、運営推進会議でご家族の意見や要望を聴取している。また年1回、顧客満足度調査を実施し、結果は外部に公表し、ミーティング等で検討し改善に努めている。	家族の面会時や電話連絡、運営推進会議への参加と報告書の送付により、利用者と施設の状況の把握に努める中で、家族との繋がりの関係を大切に、利用者・家族・職員の相互間の交流による思いの把握を、支援へと導いています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期ミーティング、個別面談等で職員が発言する場を設けている。意見や提案については全員で話し合い、反映できるようにしている。	情報の把握と周知・協同関係を導くチーム力を視野に、利用者本位の支援へ繋ぐ取り組みの様子が伺えます。職員の思いの透明性(働き易さ・職務体制の見直し等)を大事に捉え、施設の質の向上へと取り組む姿勢が伺えます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に面談や聞き取りを行い、働きやすい職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の経験や力量に合った目標を一緒に考えている。意欲を持って仕事に取り組めるよう、内部・外部の研修への参加を推進している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月毎に施設部会に参加。 情報共有・交換の場となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人と面談する機会を持ち、入居後に安心して過ごしていただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族の不安や疑問を十分に傾聴するとともに、入居後も安心して任せていただけるようコミュニケーションを図り、良好な関係性の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の意向を把握、入居前の生活状況について把握し、スタッフ間で共有し必要な支援を提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が生活の中でできることを見つけ、役割を持っていただくことで、コミュニケーションを図りながら良好な関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には日頃の様子を報告している。ご家族も一緒に介護をしている関係であることを忘れずに、ご家族との信頼関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の際は、職員から近況を伝えるとともに、ゆっくりと過ごしていただけるようお茶を用意するなどの配慮をしている。	家族からの情報を援助の糧に、馴染みの方(お友達・近所の方等)との繋がる交流を支援しており、面会や電話の場面の活用が行われています。相互交流を大切に、継続的な関係づくりに努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の会話や交流が円滑にできるよう職員が会話に参加したり、席の配置を工夫するなどしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も連絡を取り、近況を聞いたり、相談に応じたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望を、できる限り生活に反映できるように努めている。	利用者の心身状態の把握と意向の気付き、思いの原点への理解に取り組みながら、全職員間での共有を大切に、寄り添える支援の実践に努める姿が伺えます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご自宅に訪問し、ご本人とご家族からお話を聞いたり、自宅での生活の様子についてアセスメントを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録でご本人の生活リズムを把握している。また、職員間の申し送りにより、変化や気づいたことは情報を共有し、日々のケアに活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向を踏まえ、専門職と職員と一緒に検討し、介護計画を作成している。状態の変化が見られる時には計画を変更している。	ミーティングにおいて、個別ケアにおける聞き取りが行われ、専門職との相互の話し合いに繋げており、長期6か月と随時(臨機応変)の計画策定が行われています。家族の意向確認と説明・同意を得ています。	計画目標への取り組みの様子が伺えます。目標の達成においては、日々の支援過程における実践状況の把握を意図する書式(チェック様式)の工夫によるチーム支援の向上に、一層の期待が持たれます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の生活の様子や健康状態が把握できるように記録している。必要に応じて、より詳細な記録をとり医師に相談や職員間で話し合いを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望にできるだけ応じられるよう職員間で話し合いながら柔軟な支援ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事等に参加し、地域の方との交流を図る。夏に高校生ボランティアの受け入れを行った。利用者様も楽しく過ごすことができた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と24時間の連携を図る。それぞれの利用者様が急な発熱の際などにかかりつけ医の受診を継続できるよう支援している。	従来のかかりつけ医を入所後も主治医としている利用者が殆んどです。歯科医師も含め5ヶ所の医療機関の往診があり、緊急時の24時間医療体制が整っています。情報は家族に報告し共有に努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関と24時間の連携を図る。週に一度看護師が訪問、情報共有や相談を行い疾患の早期発見と対応ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には日頃の生活状況について情報提供を行っている。入院中も病棟看護師やMSWとの情報交換を行い早期に退院できるよう勤めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族に対して重度化した場合の指針を説明し了承を得ている。早期の段階から主治医との連携を深めて支援を行っている。	入居時に「重度化した場合の指針」「看取り指針」にて、事業所ができる最大限のケアを説明しています。家族の同意の確認と、医師がターミナルの判断をした時点で、更に家族・主治医・看護師・職員でカンファレンスを行い、対応方法の共有を図っています。	今迄に1件の看取り経験がありますが、中には看取り経験のない職員もあり、勉強会を通じ、看取りに対する方針に基づく対応が出来るよう、日頃から心構え等準備をされることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や事故発生時の対応について、適宜研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震、水害等夜間時を想定した避難訓練を年2回実施。9月の台風水害では家屋の浸水等に遭われた方を緊急受け入れするなどの対応を行った。	昨年の水害(台風)では、近隣で被災された高齢者を事業所で受け入れる対応をされました。地域住民との協力関係が築かれるとともに、今後も地域との連携を踏まえた安全対策を考えています。職員も実際の災害を経験し、その反省を実施結果記録に残し、避難訓練(ライフライン停止の想定)に活かしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を尊重したケアを実践している。研修やミーティングの中で具体的な例を出しあって、職員全員で取り組むようにしている。	職員は利用者一人ひとりを尊重し、敬語を使った言葉かけを実践しており「せかさな、否定しない対応」を心がけ、入室時に必ずノックをする等プライバシーに配慮した支援を行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話だけでなく表情や様子からも利用者様の意向を把握するように努め、自己決定できるよう支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの利用者様の生活リズムや意向を尊重して個別に対応を行うよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えを自分で選んでいただくようにしている。職員による髪の毛のカットを行ったり、希望により理髪店への外出支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	米を研ぐ、野菜を洗う、食器を拭く等、無理なく行えることを楽しみながら手伝っていただくようにしている。一緒に広告を見ながら食べたい物があればメニューに取り入れている。	普段の家庭料理を中心に、利用者の好みや季節に応じた献立を職員の手作りで提供しています。調理法や見た目、味付けを工夫し、職員も一緒に話し合いながら楽しい食事風景が見られました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を把握し、一度にたくさん食べられない方や、摂取量の少ない方は夜間にも水分・栄養補給を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の状況に合わせて口腔ケアを行っている。残渣物が無いよう毎回注意して観察している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、座位保持ができる方はトイレ誘導を行い、できる限りトイレで排泄ができるよう支援している。	一人ひとりの排泄状況を把握し、職員がさりげなくトイレに誘導しています。失敗を減らすために早めの声かけや、表情・しぐさから察知するようにしており、基本的には同姓介助を行い、プライバシーの配慮に心がけています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を確認、職員間で情報共有している。服薬だけでなく、食事量・内容を見直しておやつに芋を提供するなど工夫して便秘を防ぐよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体力や体調を考慮しながら、週に2回以上は入浴誘導している。入浴を嫌がる利用者様には一緒に歌を歌うなどして楽しんで入浴できるよう努めている。	清潔の保持、身体状況の把握も含め個々の体調に合わせ、週2回以上の入浴支援をしています。寝たきりの利用者にも職員が2人対応で、浴槽につかって頂き喜ばれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や居室の明るさを好みに合わせて調節している。睡眠リズムを把握し、就寝時間はそれぞれが休みたい時間に休めるよう対応を行う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の名前や効能を把握し、マニュアルに基づいて誤薬がないよう留意している。薬が変更になった際は、申し送りノートで全職員に伝達を行う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で楽しみを持てるよう提案や準備を行い、好きなことに取り組んだり、役割を担っていただけるよう支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームの周辺を散歩したり、近くの店におやつを買いに行くなどしている。希望者は歌謡ショーなどのイベントに出かけたり、河津桜を観に行くなどしている。	天候や利用者の健康状態に合わせ日光浴や散歩、買い物等の支援を行っています。家族の協力や個別対応で花見やイベント、市民会館での催し物に出かけています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身で財布を所持している方、小遣い金としてホームで預かっている方もいる。個別に外出した際は、買いたい物を自分のお金で購入できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話したり、かかってきた電話を取次いだりしている。今年は地域の子どもたちから年賀状をいただき喜ばれた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースでは席の配置を考慮し、いつもの居場所として落ち着けるよう支援している。 写真を飾ったり、季節に応じて壁面を変えるなどの環境整備を行っている。	共用空間は明るく、広くゆったりとした生活環境になっています。オープンキッチンから調理の音や匂い、職員との会話が家庭的な雰囲気を出しています。窓から眺める風景(桜、みかんの花)に利用者も癒されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置し好きなときに腰掛けて隣の方とゆっくり会話したりして過ごせている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	たたみやコタツを置いたり、使い慣れたテーブルを持ち込むなど、ご家族と相談しながら居心地の良い居室になるよう配慮している。	家族とも相談して、利用者個々の希望や状況に応じて、テレビや家族写真、使い慣れたテーブル、畳の部屋にはコタツを持ち込み、居心地の良い環境になるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	屋内外を含め、バリアフリーになっている。生活を送る上で、戸惑わないようトイレや個々の居室に表示をしている。		